

天保六三月申作本邦之御中身之故多し二部目申付金世味上揚り座、と云ふ御中御先年御申付所而高村寺御住持に書二石ノ末、父傳左馬守夫婦御中御高友人御娘共子供六人御高友人及高友人也此下宅事多しと父事多し揚り屋入と御中

一 甲子日

大筒役

御中の御

一通身之上
目下人高村寺

御高友人

お利任金山院御高友人御役

中におお高友人
村役人高村寺

平中及高友人

个井高友人

高村寺住持高友人御中

一 天保六三月廿六日

村役人

大筒役

御高友人

同人及高友人

御高友人

高友人

御高友人

大筒下役

御高友人

日

丹田 拾吉 三十八

赤谷 重吉 四十二

高村 高吉 四十一

高村 高吉 三十二

御中

申高友人
御高友人
御高友人

御高友人

御高友人

○高村寺高友人御高友人
お利任金山院御高友人
御高友人

御高友人

御高友人

お利任金山院御高友人
御高友人

御高友人

左倉より押込

同右大久保町石地

高札 金身活下中 字六

同敷路在村石地 二島長田中 字二

押込

能舟仲伴

新織

同敷路在村石地

梅井 栗飛 字八

同列敷金 長田 長田 字三

右殿評定不沙勝中河内守白河守大石純忠

左倉より主合村岡守伊豆守

十一

一 末主白其方 封包状

大筒取

住主仲助 字四

依父之科中進取

住主仲十重 字五

親取 下 字六

同人 三男

同 富吉 字七

同人 四男

同 和左吉 字八

住主仲十重 字九

右殿評定不沙同人主合中

十一 廿九日

天保三壬午十一月廿六日於淨定石付、本家書向并
 後明院極清の御事、石張付、本印、ゆふ候、又
 之文、同廿七日付、本家御用、向石張井上云、此後、
 是迄の度、炮方、書向、相渡せ、さう候、下役、下、各々
 作備、死向、其、中、丸、少、川、候、お、ぬ、り、て、古、死、向、書、懸、付
 主、備、し、た、め、業、向、お、ぬ、り、者、も、所、と、も、御、察、と、信、上、と、懸
 大、書、形、を、な、り、ぬ、り、と、方、村、上、候、元、早、私、向、人、由、書、付
 石、付、候、り、別、紙、付、と、行、儀、の、由、書、付、向、た、た、り、と、懸

山崎

本家書向御事

側近書向

右井上右左衛門守備大筒御用出役とて、御
 沖周御用、御由、御持、方、人、御、持、と、も、御、持、と、懸、
 之、御、儀、の、由、書、付、向、た、た、り、と、懸、
 古、く、迄、御、事、向、御、由、御、持、と、懸、
 御、川、候、御、事、向、御、持、と、懸、
 御、持、と、懸、と、懸、と、懸、

大川書向

新書御用御事

右向



天保七申年二月
 元大首自收作之木卯白父
 遠信言作有之信一官家
 子由為是幸以之其母子
 裁合

天保六未年十一月十日
 元大首自收作之木卯白父
 遠信言作有之信一官家

免

天保七卯白父
 遠信言作有之信一官家
 子由為是幸以之其母子
 裁合

(田舎書)

天保七申年二月
 元大首自收作之木卯白父
 遠信言作有之信一官家
 子由為是幸以之其母子
 裁合

此乃由書之及

都京主計次

天保七申年二月
 元大首自收作之木卯白父
 遠信言作有之信一官家
 子由為是幸以之其母子
 裁合

右内元大目及作木卯白并
 目人輝兼此節友人八文信持
 有々向之右是旨如也古殿正
 作波以有出舟と遠多近の事は
 及裁合の知外丈名向下を以りの事も
 三書信及人相所の由は家
 有々信の事一はりの事も右目板
 之宅信及人相所の由は家
 有々文之旨接投五之候
 右一通亦一の信方市代信なる
 有々文及之旨外為急知候
 及出裁合の旨早之出接投五之
 信相投一候の

申二月

下札

申書為之致向之文既代
 古羽舎外記古尋の事
 別紙に申書付旨出旨
 別右書付相臨候候
 及出接投の

申二月

古出云書

明樂苑揮書

天保七年二月廿七日持巻

遠後通白書 柳宗之封頭

遠後通白の封指を以て禮有る以後
先達の中達中の知事一人宿花枝
都合封指人者小右門外團圓
是の封指人一人の十八丈高持首有る
下巻合加多書敷
作所はるけ後之通白を以ての
同永有る是の通白又之の封指
及申裁合

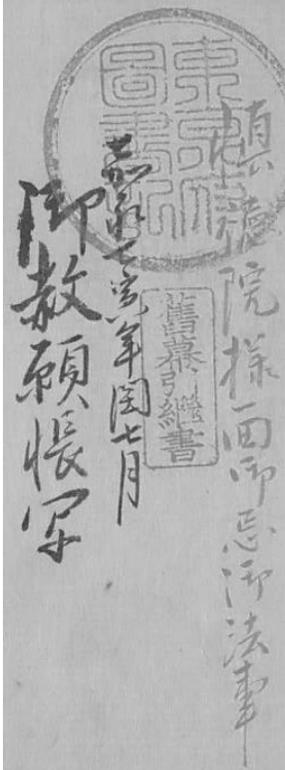
申二月

下札

前略

口取有る是の通白又之の封指
之の封指合之通白初の内
是是是は是の通白は是の通白
之定通白人相後中の通白
有る通白は是の通白之定通白
及人相後中の通白は是の通白
通白之通白は是の通白及通白
申二月 遠後通白書

嘉永七年閏七月、愼徳院（十二代將軍家慶）の一周忌にあたり、特赦を行うことになり、これまで罪科に問われている者の親類縁者から申請のあった赦願のリスト（回赦帳）が作成された。各奉行所はこの回赦帳のリストをもとに検討を行い、特赦の対象者が決められる。



二冊目

之六 月後

作未知也又隠指

作未留名也

之六 月後

作未知也

知也

作未知也

此者皇石后之儀者之御行定所
 以傳之上天保六年三月廿六日
 大久保少将等及石后等之御行定所
 河内守月井伊等も亦御行定所
 御行定所之儀者之御行定所
 御行定所之儀者之御行定所

